

耕作放棄地を活用した繁殖和牛 の放牧について

(令和2年10月16日)

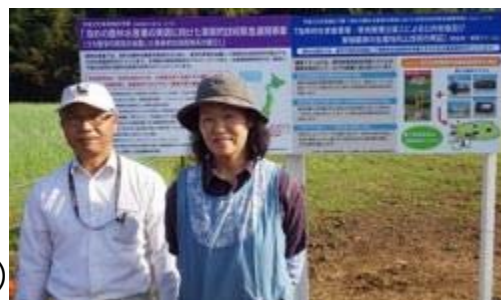
瀬尾ファーム 代表
瀬尾亮

瀬尾ファームの場所



1. 瀬尾ファームの経営概要(令和2年9月15日現在)

立 地: 栃木県南東部の那珂川流域の中山間地域
 飼養頭数: 繁殖和牛 36 頭 (うち 29 頭は放牧地)
 子牛 19 頭 (うち 9 頭は放牧地)
 肥育牛 9 頭
 経営草地: 放牧地 8.1 ha (うち借地 7.8 ha)
 採草地 0.5 ha (借地)
 施 設: 繋ぎ牛舎、育成牛舎、倉庫、堆肥置き場等
 機 械: トラクタ 2 台、軽トラ (ダンプ)、バックホー、
 フォークリフト等
 労 力: 夫婦 2 人



(本人と妻)

2. 肉用牛繁殖経営への就農、放牧導入の経緯

2002年：海上自衛隊を早期退職し、妻の実家へ

山林76ha、水田1ha、畑20aを所有しているが、山林が多いため、シイタケ栽培が主であった

← 原木シイタケの露地栽培は将来性が見込めない

← 茂木町は山に囲まれている典型的な中山間地域で、耕作地単位が狭く営農には大変な努力が必要であり、耕作放棄地も多い

和牛繁殖農家をめざす

まず、子牛1頭を飼い、その後、自宅前の原野、畑、山を造成し、牛舎とパドックを作り、繁殖和牛15頭を飼養

イノシシ対策のための電気牧柵を延長し、自宅前の30aの休耕田を放牧地として利用

2006年から耕作放棄地活用により放牧地を徐々に拡大

役場の理解・協力を得て、遊休地を利用した放牧の取り組みを本格的に開始



放牧開始直後 2013 10/5



放牧12日後 2013 10/16

“耕作放棄地放牧”の導入に至った理由

・繁殖経営も軌道に乗ってきたが、更に軽労化、低コスト化、規模拡大を果たすためには、放牧の導入がベストという結論に達した！

・町役場の助言や支援もあり、耕作放棄地の活用を進めていくこととなった。



まず、林地区（75アール：2006年7月～2013年）で放牧を始めることとなった。



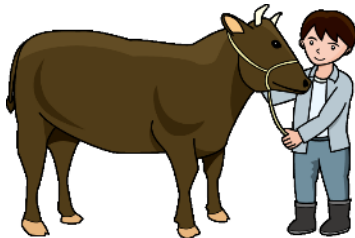
- ・牛はトラックになかなか乗ってくれない(>_<)。
- ・トラックから、牛を放牧地に入れようとしたら、うまく入らず逃げていった。



牛舎では実感しなかったが、牛の移動は難しい！
牛の扱いを簡単にするにはどうすればいいんだ～～～！

牛をどう攻略するか？

- ・牛はなかなかトラックに乗らない
- ・トラックから飛び降りる牛もいる
- ・脱柵する牛もいる



- ・放牧できる牛を作る
（保留牛が原則）
- ・牛の放牧馴致が必要
（ハンドリングが大切）

・牛舎にいる段階で、牛を動かすことが
ポイントだ！



3. 放牧地区の概要

瀬尾ファームでは現在、3地区(大峰、猪田、下河原)の耕作放棄地で放牧を行っている。

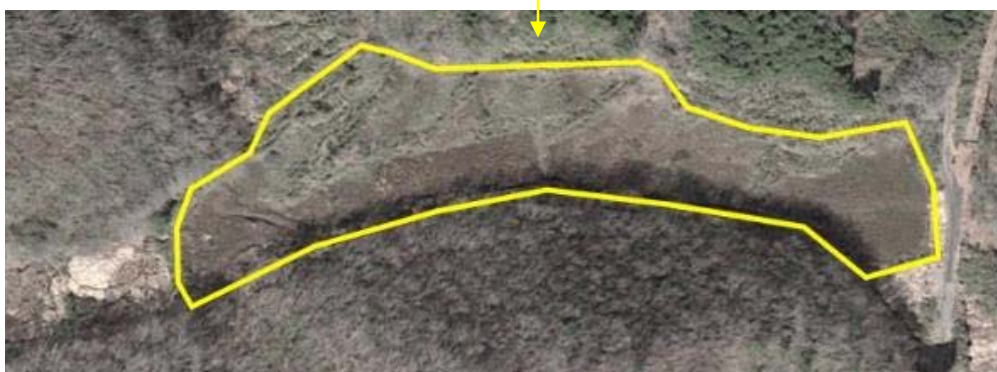
そのうち下河原地区には、耕作放棄されていた圃場(元タバコ畑)を活用した10牧区(総面積6.4ha)の放牧地がある。この地区のすぐ横には栃木県の代表的な河川の一つである「那珂川」が流れている。



引用: Google

①大峰地区

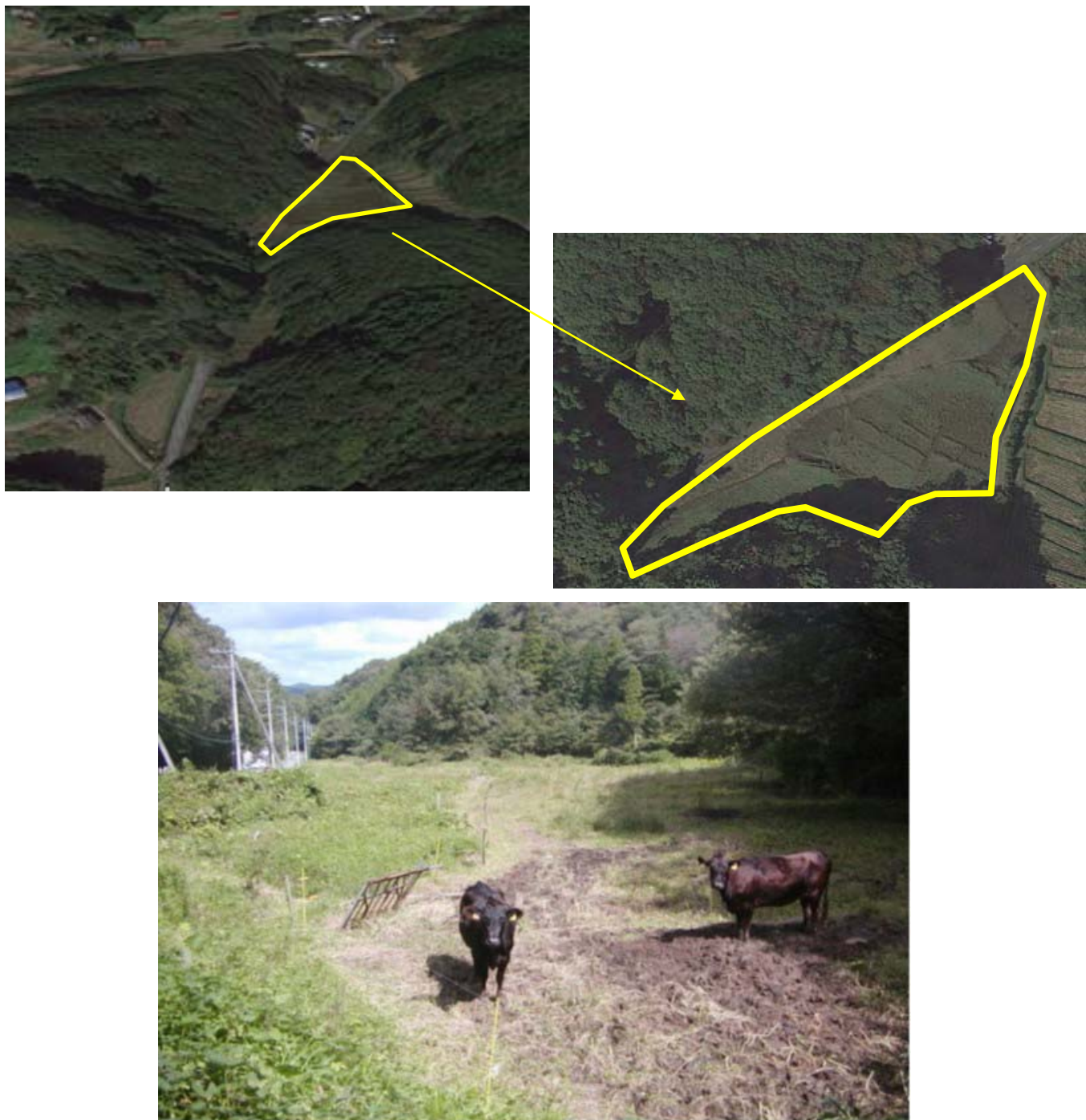
75a(地権者4名)2007年7月より



- ・町からの斡旋があり本地区にて導入
- ・最初の放牧地である林地区と大峰地区の2地区での放牧により、放牧に関する技術は修得できた。
- ・放牧牛の見回りは、3回／週程度。
- ・和牛は傾斜があっても放牧が可能。

②猪田地区

60a(地権者2名) 2009年10月より35a、2015年より25aを放牧利用



- ・2人の地主のうちの1人から休耕田の草刈りが大変なため放牧を勧められた。
- ・家に近く面積が小さいので、主に分娩間近の牛2頭を放牧。

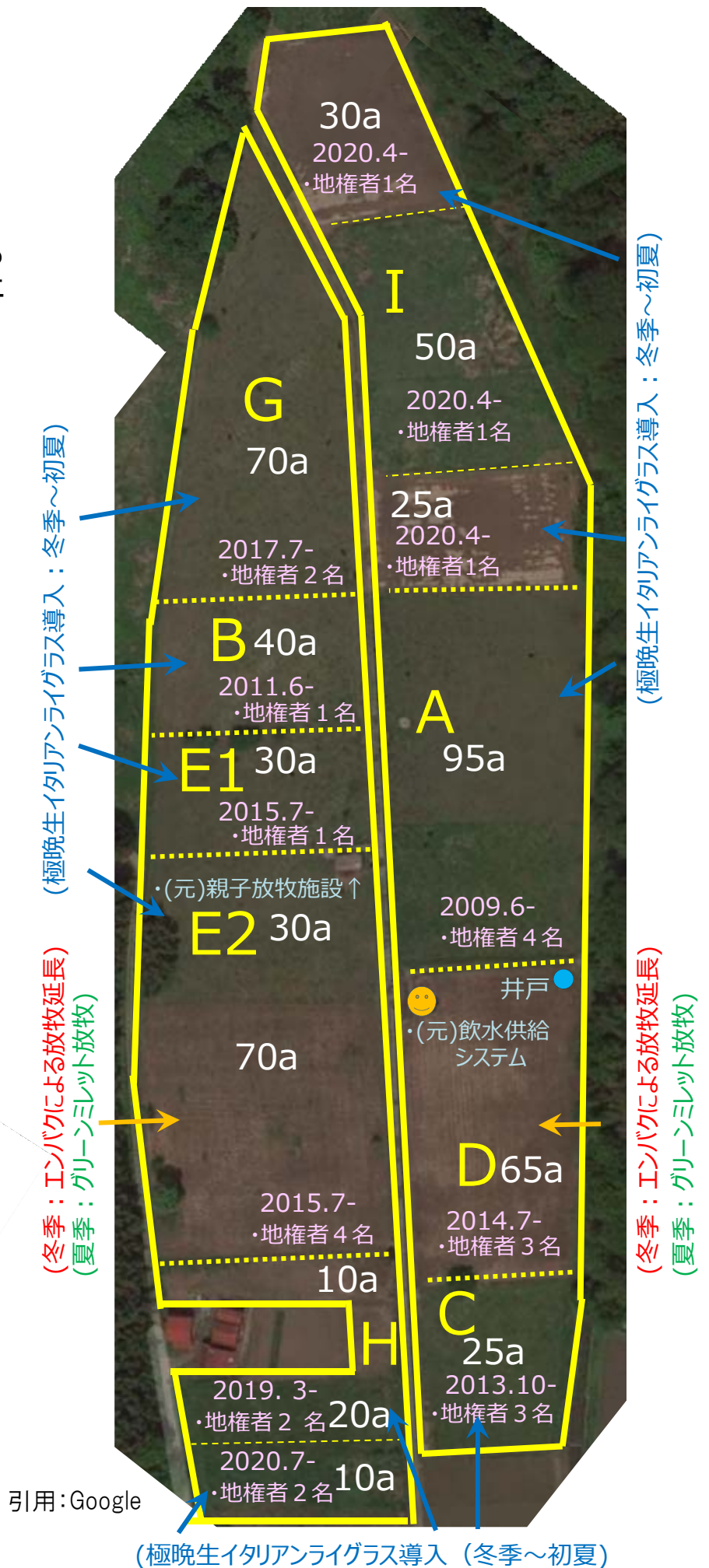
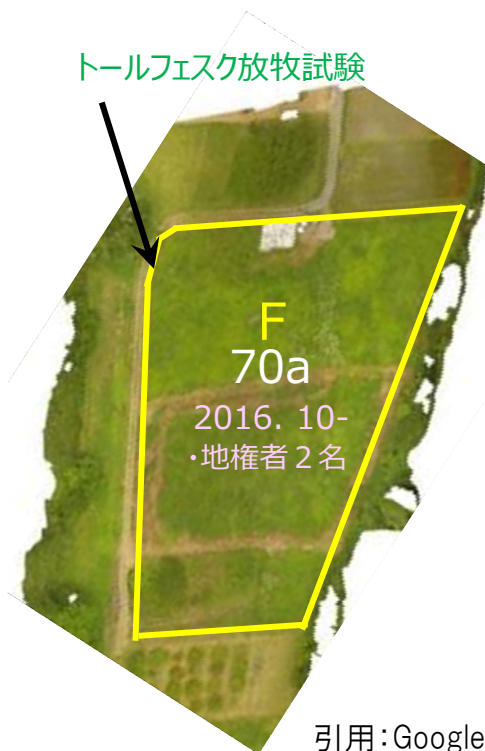
③下河原地区

全体6.4ha
地権者 のべ25名

・県からAの土地の斡旋があり、地域の方々にAの土地にて放牧をすることを説明した上で、開始。

・その後、
B→C→D→E→F→G→H→I
の順に拡大

周年親子放牧
周年放牧(繁殖雌牛)
育成牛夏季放牧



下河原地区 E



クズ、セイダカアワダチソウ、ススキ中心 草高2.2m



下河原地区 F



ノイバラなどの上にクズが繁茂



下河原地区 G



クズ、灌木、カモジグサ中心



4. 新技術の導入

新技術①: 牧養力維持と放牧期間延長技術

耕作放棄地放牧における家畜生産上の課題！

- ・ 放牧利用の継続に伴う既存植生の衰退
- ・ 放牧期間が6月頃～10月頃に限られる

牧養力の維持・向上のための

表面追播による簡易牧草導入技術

低コスト・省力化のための

秋冬季放牧に適した飼料用ムギ類等を導入した放牧期間延長

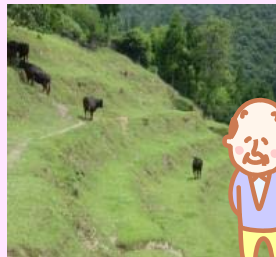
耕作放棄地放牧
(6月頃～10月頃)

放牧期間延長
(11月頃～1月頃)

放牧を続けていたら、
植生(野草)が衰退し、
エサが無くなった

耕作放棄地の地形が悪くて、農機が入れない

表面追播による簡易牧草導入技術



ストリップグレージング

飼料用ムギ類等による放牧期間延長

新技術②: 自動飲水供給システムによる飲水管理の省力化

太陽光発電を活用し、直流電源駆動のポンプを利用して飲水を供給。電気牧柵との併用も可能！

飲水自動供給システムの導入

電気牧柵システム

揚水ポンプシステム

水運搬・給水作業からの解放

放牧面積の拡大に寄与

5. 放牧を行って気づいたこと

- ・軽労化、低コスト化、規模拡大には、放牧の導入がベストである。
(町役場の助言、支援もあり、耕作放棄地を利用)
- ・放牧継続のためには既存植生の衰退をカバーすること。
(飼料用ムギ等の播種)
- ・放牧場所の設定には、周辺農地、住宅等への配慮が必要である。
- ・個人による農地の権利調整は、困難な場合がある。
- ・長期に渡って安定的に土地が使えることが望ましい。
- ・地域で将来の土地利用について合意形成が得られていると、今後の経営方針が立てやすい。
- ・放牧を導入・継続していくためには、地権者や地域の人々の理解が不可欠である。

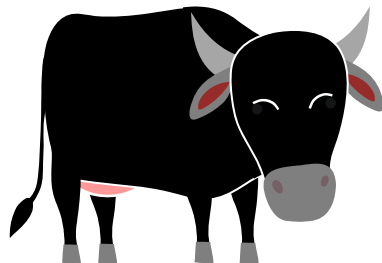
6. 将来のビジョン

(1) 放牧頭数の増加

- ・廃用牛を放牧してから出荷する。
- ・放牧地で子牛の出産と育成を行う。

(2) 放牧面積の拡大

- ・下河原地区には活用していない耕作放棄地が残されており、農地中間管理機構等を通じて、放牧地化を図りたい。
- ・休耕田と里山をつないだ林間放牧を行う。



任せて！

耕作放棄地は
牛さんに頼もう



7. おわりに

～土地とウシのほかに大事なものがある～

放牧を導入・継続していくためには、地権者や地域の人々の理解が不可欠であり、日常的に良好な関係を築く努力が必要である。

毎年、1月に下河原地区の一画で実施される小正月行事「どんと焼き」に参加・協力することにより、地域の人たちとの絆ができ、放牧への理解と協力関係が得られた。



※2020年は中止



※「どんと焼き」: 竹、萱などで作ったやぐらの中に門松などを入れ、火をつけ燃やす伝統行事。

8. 参考資料(2019年10月12～13日台風19号による被災)

- ・下河原地区全体が一時浸水し、放牧牛23頭が流された。後に17頭救助される。
- ・草地約5haのうち、約2/3が土砂に埋まる。
- ・施設の多くが全壊する。



親子放牧施設



(元)親子放牧施設



庇陰木



庇陰木 (流木、流竹が引かかる)

2019 10/13被災(農研機構 中尾氏 現地入り)

2019 10/14～流された牛の救助活動(JAや地域の関係者、福島県放牧農家、農研機構 山本氏ら 協力)



台風で崩れた堤防



流されて川岸で見つかった牛を捕まえたところ



足元が悪い中、川岸から牛を牛舎へ戻すところ



木に引っかかった流木類より
約3m 程度水に浸かったと推察

茂木の家 **流された牛 戻る奇跡**

台風19号が本県を直撃して26日です。未曾有の増水で甚大な被害を受けた茂木町の那珂川沿いでは、最大約30cmも下流に流された肉牛が保護されるなど朗報が届く一方、廃業を覚悟した酪農家もある。流れた牛の一部を取り戻した畜産者の男性は「備えが甘かった」と悔やみ、喜ぶ間もなく不明の牛探しを続ける。被災者は傷つきながらも生活再建に向け踏み出そうとしている。(飯塚博)

機材など浸水、廃業覚悟も

「もう駄目だ。かわいそうなことをした。茂木町小井戸、畜産業瀬尾亮さん(65)は13日午前5時半ごろ、肉牛23頭を放していた茂木町河井の約5畝の放牧場が濁流に沈むのを見て立ち尽くした。牛の姿はどこにもない。しかし午前9時ごろから、落胆した瀬尾さんの元に「牛が流れ着いた」「鳴き声がする」などという情報が次々に入ってきた。

JAはが野の職員や畜産仲間ら6人で探し、隣町の茨城県常陸大宮市でまず生

台風19号

濁流の中から生還し、元気に餌を食べる肉牛を、保護に協力したJA職員と見守る瀬尾さん(手前) 11月25日午後、茂木町小井戸

2019 10/27
下野新聞より

2019 11/12 救助できた17頭の牛の飼養場所が問題となり、比較的被害の少なかった
F牧区を利用できるように施設と牧柵を復旧(流木(竹類)と土砂を取り除く)

・F牧区 被災直後の状況



2019 10/17撮影



2019 10/14撮影



2019 10/14撮影

・F牧区施設 復旧作業



土砂の搬出



流竹・流木の取り外しと搬出



絡みついた流竹類を手作業で取り除く



復旧

2020 2/26宇都宮大学ボランティアの方の協力を得て電気牧柵張り



宇大の学生と電牧を張る



流失した牧柵の杭を打つ



修復された電気牧柵

放牧の再開



放牧再開時の風景

2020 5/13



放牧頭数も増加

2020 6/2